

シテ・レトル
CITE
LETTRE

2019
October
Vol.80 **10**

In order to promote the creation of an attractive Osaka, public and private spheres must link up and work together. The CITE Salon is an organization created as a forum for such collaboration. It was set up in January 1992 as membership organization with the slogan "Vibrant and Attractive Town Building towards a New Era".

Leader's Interview

大阪市 副市長 高橋 徹 氏

**ポスト万博を視野に入れ
大阪をアジアのゲートウェイに育てる。**

Event Topics

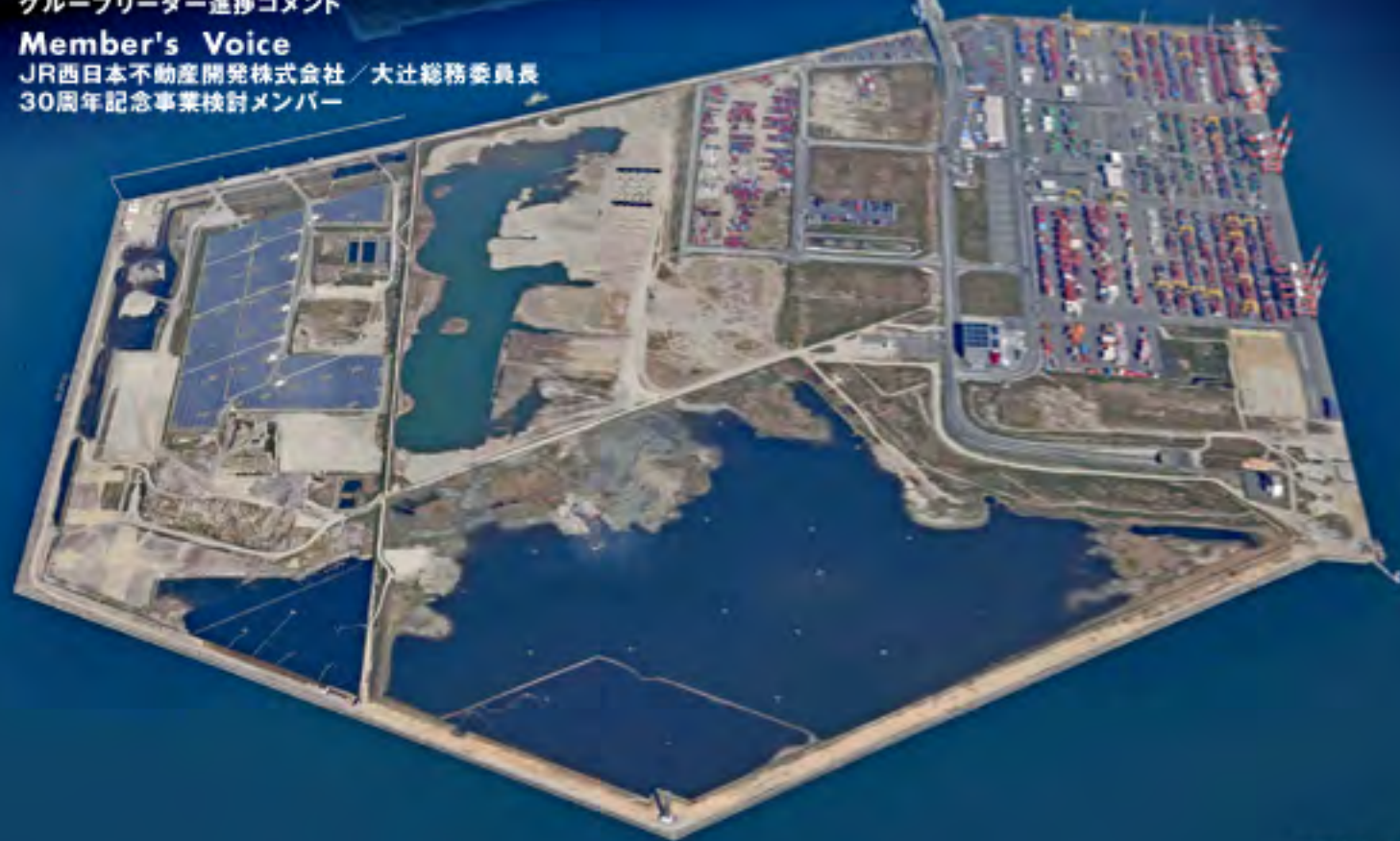
テーマフォーラム／さろんトーク／自主活動プログラム／幹事研修会
トークセッション／大阪食文化研究会／ソトから見た大阪研究会 など

Workshop Report

グループリーダー進捗コメント

Member's Voice

JR西日本不動産開発株式会社／大辻総務委員長
30周年記念事業検討メンバー





ポスト万博を視野に入れ 大阪をアジアのゲートウェイに育てる。

スーパー・メガリージョン構想、スマートシティ構想。万国博覧会開催の決定以来、大阪は未来の夢の現実に向けて着実に歩を進めています。さまざまなインフラの整備が進む中、大阪はどんな目標を持って、どんな方向をめざしていけばいいのか。今回は、大阪発展の先導役を担われている大阪府副市長の高橋徹氏に、ポスト万博まで見据えた大阪の未来について伺いました。

高橋 徹氏

Mr. Toru Takahashi 大阪府副市長

生 年 月 日 昭和33年3月3日
出 身 地 大阪府
昭和50年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程 修了
昭和60年4月 大阪府採用 総合計画局勤務
平成7年4月 計画局計画部地域計画課主査
平成13年4月 計画調整局計画部都市計画課長代理
平成15年4月 計画調整企画調整部都市再生企画担当課長
平成18年4月 計画調整企画推進部都市プロモーション企画担当課長
平成19年4月 計画調整局計画部都市計画課担当課長

平成21年4月 計画調整局開発調整部長
平成24年4月 計画調整局計画部長兼うめきた整備担当部長
平成24年6月 総合計画調整局うめきた整備担当部長兼務
平成25年4月 都市計画局計画部長
平成25年8月 都市計画局交通政策室長兼務
平成26年4月 都市計画局理事兼経済戦略局理事
平成30年4月 都市計画局長
令和元年6月 大阪府副市長
現在に至る

●大阪・関西の広い視点でまちづくりを
濱田:1985年の入庁以来、総合計画局勤務やMTI留学などをご経験になり、永年にわたって大阪のまちづくりに携わって来られて、今年6月に副市長にご就任されたわけですが、就任されてのご抱負をお話願えますか？
高橋:よく府市連携といわれますが、今回、田中副市長が副知事になられて、府市連携をさらに密にしてまちをつくっていききたい。それも、大阪市だけではなく大阪都市圏さらには関西といった広い視野でまちづくりを進めていきたいと思っています。

●先人たちが描いた夢を素々と継承
浅井:まちづくりというテーマでお伺いしたいことがいくつかあります。まずは、マクロ的な視点から、うめきた2期や中之島エリアの開発など、市内での都市再生プロジェクトが自白押しですが、各エリアに期待される役割についてお伺いしたいと思います。
高橋:まちづくりは、すぐにできるというものではなく、私が副市長になったから急に変わるものではないと考えています。今から遡ること16年ほど前ですが、「大阪市都市再生プログラム」が策定されました。これは、うめきた、中之島、御堂筋、難波、阿倍野、臨海部…各エリアで、どんなビジョンを持ってまちづくりをしていくかについて計画したもので、それぞれのエリアごとに行程表を作成し、それを厳しく進行管理してきました。それが10年ほど前によく枠組みとして現われてきました。このように、まちづくりは継続事業なので、先人たちがつくってきたものを素々と継承しているということなのです。今の状態は、16年前につくられた「大阪市都市再生プログラム」の仕込みが成熟化してきて、そこに今回、万博やIRといった新しい要素が入ってきて、プランの付加価値がより高まってきている、と考えています。

●大阪の都市格向上に貢献したG20
浅井:6月に大阪でG20が開催され、世界に大阪のまちをアピールする絶好の機会となりました。一方で、大規模な交通規制や公立の学校が休校になるなど、市民生活への影響も少なくなかったと思うのですが、2025年の万博に向けてのアピール効果や規制を実施した結果見えてきた今後の課題などがあればお聞かせください。
高橋:G20については、市民のみなさまや企業、みなさんの協力なくしては決して実現できなかったと思っています。ほんとうにみなさんの協力の賜物で、行政だけではできなかったことだと痛感しています。また、大阪でこういった大規模な国際会議が安心・安全に開催できることがPRできてよかったと思います。さらに、デジタルデータ流通や電子商取引に関する国際ルールづくりの「大阪トラック」、2050年までに海洋プラ

スチックごみによる追加汚染をゼロに削減する「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」など、大阪を冠につけた首脳宣言をしていただき、大阪の都市格向上につながったと思います。

●万博はインフラ整備のマイルストーン
浅井:次にインフラ関係についてですが、2025年万博が決定したことをきっかけに大阪の広域インフラネットワーク整備が動き出し、2019年にはおおさか東線が全線開通、2030年度末の開通をめざしてなにわ筋線の整備が進んでいます。このような中で、インフラといえば鉄道だけではなく、高速道路や3空港の連携、あるいは海上交通など各種ありますが、今後力を入れていきたいとお考えのインフラ整備について、ご意見をお聞かせください。
高橋:都市の国際競争力をつけるためには、交通アクセスをどうするかが大切です。大阪の都心と開空アクセスをどうするかが一番の課題です。そのためには、なにわ筋線を動かし、国・府・市あるいは民間の力を借りて、この7月には、鉄道事業許可を取得し、来年春頃には用地取得の手続きを開始することになっています。あと、日本全国の広域高速鉄道ネットワークをどうつくっていくか、リニア中央新幹線や北陸新幹線などを先ほどの開空アクセスと連動させ、いかに高速鉄道アクセスをつくっていくか、がこれからの大きな課題だと考えています。私たちが今、計画していることは、ほぼ2025年の万博までに完成している予定で、次の高速鉄道ネットワークは、大阪のまちづくりの次のステップになると考えています。これから若い技術者とも情報交換をしながら次のプランをつくっていきたくと考えています。あと、空港も大切になってくると思います。今、関西には開空、伊丹、神戸の3空港がありますが、これらが役割分担しながら、それぞれの特長を活かした形で、都市と空港がお互いに相乗効果を生み出すようにできたらいいと考えています。

高速道路については、18年前に都市再生環境道路として国から位置づけられましたが、国や関係者のおかげで、ようやく淀川左岸延伸部を事業化できるようになりました。都市計画を2年前に決定し、ようやく事業化に至っています。これは、ほんとうに画期的な整備手法で、国直轄事業とNEXCO西日本・阪神高速による有料道路事業の合併施工方式で事業化しています。完成は2030年度の予定で、その頃には自動運転という流れがもっと前面に出てくるでしょう。そういった高速道路を活用した自動運転にもこれからは期待したいと思っています。
浅井:去年は、6月に大阪北部で大きな地震があり、9月上旬に台風21号が来て開空が水に浸かるということがあり、インフラ整備には防災的な課題もあると思いますが、これについてご意見をいただけますか？
高橋:現在、資産の組み換えで防潮堤の耐震補強など災害に強いまちづくりに向けた取り組みを進めています。関西国際空港のコンセッションに向け、大阪府が保有していた大阪国際空港ターミナルの株式を売却して56億円の売却益を得ました。それを組み換え、「安心安全に関わるものに使う」という方針を立て、着実にインフラの更新を進めています。

●未来社会の実験場として風を起す
浅井:大阪万博とIRについてお伺いいたします。万博を成功させるために夢洲だけではなく大阪全体でまちとしてやるべきこと、例えば会場へのアクセス連携や多くの外国人を迎えるために、大阪のまちとして準備しなければならないことなど、ご意見ございましたらお聞かせください。
高橋:万博は、開催期間の半年で2800万人の来場を想定していて、ピーク時は1日に28.5万人が来場するとの試算があります。その方々への対応は、電車とシャトルバスで6割、クルマが4割、クルマについては最寄りの駅からパークアンドライドで夢洲にアクセスしてもらおうと考えています。公共交通は地下鉄が主体になりますが、足りないところはターミナ



ルからのシャトルバス運行で対応する予定です。バスに頼むということが想定となっているので、その時は自動運転で滞りなくバスを走らせていくような輸送システムを構築することを予定しています。その際には、インフラ整備などを担う公共と実際にバスを走らせる民間が力を合わせて取り組んでいかなければならないと思います。

万博はテーマに「いのち輝く未来社会のデザイン」、コンセプトに「未来社会の実験場」を掲げています。この「未来社会の実験場」を万博会場の中だけでなく、万博の間ではもちろん、開幕前や閉幕後も大阪都市全体で体験する動きをしたい。万博開催1年前の2024年にはうめきた2期を含むうめきた地区の大部分がまちびらきします。その際には、万博の香りをいち早く感じていただけるような新しい都市像を提案したい。いずれにしても「未来社会の実験場」ということで、大阪全体でいろんな風を起こしていきます。



浅井:ピーク時に28.5万人が来場するというお話もありましたが、インフラ整備に併せて宿泊施設も重要な項目になると思います。これに関しては、いかがお考えでしょう。

高橋:宿泊施設については、2030年に訪日外国人旅行者数を6000万人にするという政府目標が掲げられていて、客室数も充実してきていますが、ビジネスクラスも含めて考えると、供給側としてはもう少しレベルアップが必要

ではないか、と感じています。そして、都市をつくっていく側としては、ラグジュアリー系のホテルがある都市は都市格が上がるので、5つ星のホテルを誘致していきたいと考えています。こういったホテルが増えると、世界の方々に大阪のまちを知っていただけるし、都市のイメージが上がるという相乗効果も期待できます。そういった意味で5つ星ホテルの誘致には力を注いでいきたいと思っています。

●大阪らしい国際競争力のあるIRを

浅井:IRを通じて大阪のまちがどのように変わるか、どのように変わってほしいとお考えでしょう。

高橋:2020年の東京オリンピックに続く、世界から注目される一大イベントが2025年の大阪・関西万博です。前後してIRもできるでしょう。その頃が、大阪が世界から注目されるジャストタイムだと考えています。だから、それに相応しいまち、都市をつくりたい。ビジターにとってやさしいということは、そこで働く人、住む人にとってもやさしいまちになるので、来ていただいた方が快適に過ごせるような環境づくりにさまざまな施策を展開していきたいと考えています。それは、住むところであったり、遊ぶところであったり、衣食住を含めて、さまざまな面で快適な環境が提供できるように努力していきます。

浅井:IR事業の内容には、10万㎡以上の展示施設を含むMICE施設や3000室以上のホテルなどが盛り込まれていますが、施設周辺に対してプラスに寄与するものとする程度の積み分けが必要だったり競合するところがあると思うのですが、何かご意見はお持ちでしょうか。

高橋:IRでは10万㎡以上の展示場施設を備えるMICE施設の整備が重要だと考えています。現在、近隣の展示場としてインテックス大阪がありますが、インテックスをどうす



るのかは、IRの具体的な施設概要が明らかになってからの判断になると考えています。事業者さんによっては、インテックスとの連携を提案されるかもしれないし、独自で対応するところがいらっしゃるかもしれない。いずれにしても、大阪らしい国際競争に勝てるような提案をしていただけたらうれしいなと思います。

●アジアのパワーを取り込んでゲートウェイに

浅井:大阪や関西がめざすべき方向性についてお伺いします。東京一極集中が進んでいく中、首都圏下型地震や富士山が噴火した時に東京のインフラが止まるなど、潜在的な災害リスクが言われ続けています。日本としてのBCP…大阪と東京の両輪でこの国を支えていく、日本を動かしていくべきだ、と思います。それには、万博やIRをきっかけとして、さらに大阪の基礎体力を上げていく、つまり都市としての力を上げていくのが肝要だと考えています。ポスト万博を見据えた大阪のまちづくりの長期的なビジョン、2030年、さらには2040年を見据えた方向性についてご意見をいただけたらと思います。

高橋:大阪のまちづくりを考えていく上で、東京と競争しようとは思っていません。東京と同じものをつくるという考えではなく、大阪のいいところを活かし、BCP対応で、東京で何か起これば、その補完機能をしっかりと担っていくということではないかと思っています。それを考える際にキーとなるのが、リニア中央新幹線です。当初、大阪市までの全線開業は2045年を予定されていたところ、その期間を最大8年前倒しすることが目指される、つまり早ければ2037年に開業する予定です。これが大阪まで来れば、67分で東京から大阪に来ることができ、一周約40分の環状線を一周半の時間で東京まで行ける。そうすると、東京・名古屋・大阪の都市圏がひとつの圏域になってくる。そこで注

意しなければならないのが、東京に「吸われる」前にいかに「吸う」ということです。東海道新幹線ができて、私たちはストロー効果にやられました。在阪企業を東京に持っていかれてしまったのです。同じ轍を踏まないように、リニア中央新幹線開業の際には十分に準備を進めておきたい。モノづくりの名古屋、情報の東京、大阪は今、医療が強いのですが、それぞれの都市圏がその長を活かす中、大阪のプレゼンスをどう高めていくのか、「吸われず吸う」ためにはどうしたらいいのか、そういったことを考えなければならない。最近よく話しているのは、「東海道新幹線が出来た時には、まだアジアに力が無かった。でも、今、アジアのパワーは当時よりはるかに影響力を持っていて、このパワーを取り込んで、大阪・関西がアジアのゲートウェイになればいい、西日本のゲートウェイになればいい」と。関経連の松本会長がおっしゃっている。「リックウエスト」、このキーワードを軸にスーパーメガリージョンを考えていかなければならない、と思っています。

また、ポスト万博についてですが、1970年万博のレガシーといえば、太陽の塔をイメージしますね。大阪市内なら船場センタービル、建物の上に道路が通っているなんて、当時は違法建築でした。あと、御堂筋ほかの一方通行化。当時は高度成長期で交通渋滞が喫緊の課題だったので、これらに対応する形で大阪のまちが大きく変わりました。このように、2025年万博のレガシーとして、大阪のまちをどう変えていこうか、ということ自身としては一番考えていきたい。スマートシティや人に根ざして空間が変わるといいなと思っています。

●スマートシティに必要なのは

フェイスとフェイスのコミュニケーション

浅井:今、お話に出たスマートシティについてお伺いします。大阪は2025年万博を機に



スマートシティ構想を積極的に展開していくことになると思うのですが、副市長としては大阪版スマートシティに関して重点的に取り組んでいきたいことはおありでしょうか。

高橋:スマートシティ…主軸の自動運転は公共空間を堂々とするきかけではないかと考えています。ただ、スマートシティであるがゆえに、フェイスとフェイスを大事にした空間を併せてつくっていくことが大切だと思います。AIやIoTを使った最先端技術の導入も大事ですが、もっと人と人が接するフェイスとフェイスでの交流スペースをきちんとつくっていくことが大切だと考えています。これからは、VRで現実とバーチャルの境が無くなってくるので、人と人がお互いに交流する、相手の表情を見る…そういった関係づくりができるような環境をどうやってつくっていくか、が大事だと考えています。当然のことながら、通信やモビリティは効率化を図りつつ進化させていかなければならない。でも、フェイスとフェイスを残していかなければ、都市は必要なくなるような気がします。人とそのライフスタイルを考えておかないと…みんな家に居て外に出かけない…そうではなくて、みんなが「まちに出て誰かに会いたい」と思えるような空間や場所があるように、まちをつくっていくことが大切ですね。

スマートシティといえば、万博時もあるし、もっと先のSociety5.0の世界もある。これから、うめきたをはじめ、中之島、御堂筋などで民間開発が出てきます。ちなみにこの7月23日に大阪市都市計画審議会を開いて、淀屋橋駅周辺の御堂筋の両側にツインのタワーを建ててもらおうという「淀屋橋ゲート」計画を決めました。行政も必要なインフラは前倒しで実施していきますし、民間の方々にも積極的に投資をしていただいて、2025年には「これは大阪が変わったな、すごいぞ」という姿をぜひとも見せたいと思います。

●積極的に若い世代が交流する場に

浅井:最後にCITE さろんへの期待などをお聞かせください。

高橋:これからのまちをつくっていくのは若い人たちなので、若い人たちが交流する場はとても大事だと考えています。2025年には、私のような「おっちゃん」が考えていたことが実現します。そして、2030年代は本日司会されているあなたの方のような若い人たちが考えたことが実現されていく時代になるでしょう。だから、積極的に若い世代が交流する場としてCITE さろんを活用していただきたいと思っています。私は都市計画局長時代から「まちづくりにおいて考えなければならないことは、“先見性”“中長期的な視点で臨む”“広域的、国際的に交流する”」ということをお願い続けていて、こういったことが体現できる場としてCITE さろんが運営されていくといいと思います。若い人たちが新しいことを考えて、新しい大阪をつくっていく…そのプラットフォームとしてCITE さろんが機能することを期待しています。

浅井・高橋:ありがとうございました。



インタビュー
浅井 邦光氏
浅井建設研究(株)・CITE さろん 広報委員会
高橋 未知氏
大阪ガス(株)・CITE さろんWSメンバー
取材場所 大阪市役所 副市長応接室
取材日 2019年8月6日(火)



まちづくりを考える、体験する、多彩なイベントを開催しています。

テーマフォーラム

2019年5月17日(金)16:00～17:30
ホテル阪急インターナショナル 6階(瑞島)

新たに大阪市の市長に就任されたお二人に講演をいただきました。
第28回定例総会の後、田中利光大阪市長による基調講演に続き、
梅村宏尚2025年日本国際博覧会協会整備局長による特別講演がありました。

CITEさろん第28回定例会が開催され、平成30年度の事業報告及び収支決算報告の後、2019年度の事業計画及び収支予算が提案され、同年度の活動方針が承認されました。今回の「テーマフォーラム」は、定例会ととともに会員各企業から多くのご参加をいただき、万博、IRの動向が注目される中、大阪港での将来への取組み、「大阪・関西万博」に向けての最新情報を提供いただき、臨海部を中心とするこれからのまちづくりについて、盛り上げていくべき視点も明らかになりました。

■基調講演

「都市型港湾・大阪港の現在と
将来に向けた取組み」

田中 利光氏(大阪市長)

基調講演では、市長自身の経歴の中でのCITEさろんとの関わりが披露された後、2017年開港150年を迎えた大阪港の姿をたどるVTRの映写がありました。映像を見る前に、港の3つの役割、①都市開発、②防災(地震・津波・高潮対策)、及び本来の③港湾物流・交流について、本日の講演の骨子として説明がありました。初めに、川口地区から始まった港の機能が西進し、夢洲地区をはじめ、都市機能の重要な役割を担い、現在に至る状況の概説がありました。次に、輸出入貨物の99.7%が港からであるというデータが紹介され、大阪港とアジア地域とのつながりの深さが示されました。大阪港の取組みとして、①国際コンテナ戦略港湾としての国際競争力の強化、②災害に強い安全で使いやすい港の実現を柱とする防災・減災対策の強化、③企業誘致と土地利用促進等の臨海地域の活性化について説明がありました。夢洲のまちづくり構想については、ゾーニング等の土地利用計画、段階的な土地利用、鉄道網整備によるアクセス強化、快適な道路アクセスの整備など都市基盤についての考え方が示され、最後に夢洲開港インフラの整備スケジュールが紹介されました。臨海部・港湾を管理する立場からの「港と街の共存」、「身の丈にあった港づくり」に向けて取り組む姿勢が示され、ユーモアを交えた講演内容に、会場一同から大きな賛意が示されていました。



田中利光市長の講演

■特別講演

「大阪・関西万博に向けて」

梅村 宏尚氏(2025年日本国際博覧会協会整備局長)

基調講演に続き、大阪市長から2025年日本国際博覧会協会の整備局長として出向された梅村氏より、これからの臨海部の大きな事業である「大阪・関西万博」についての最新の状況について、丁寧な紹介がありました。関西の政財界が一丸となって誘致に成功した2025年万博について、推進母体として設立された協会の責任者の一人として、計画の進展、今後の進め方等について概要説明がありました。いま正に様々な事業計画の実現プロセスを明確にしつつ、着実に計画を進捗させるべく、その作業の真ただ中にある現状についての説明は、参加者の関心を呼んでいました。特に、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、「未来社会の実験場」として、半年にわたって開催される一大イベントには、関西のみならず日本中から、さらに世界から注目されるだけに、責任は重大です。講演では、会場構想に続き、鉄道、道路、橋梁などを整備するインフラ整備計画、来場者合計2820万人(1日の最大計画来場者数:28.5万人)の輸送計画とその手段別交通量の計画が示され、実現するための具体的な対策を講ずることが求められていることに、インフラ関係企業が多いCITEさろん会員企業からも大きな関心が寄せられていました。最後に、開催に向けての今後の概略スケジュールが示され、関係者も認識を新たにしながら聞いていました。



梅村宏尚整備局長の講演

第1回さろんトーク

2019年8月22日(月)16:00～17:30
I-siteなんば2階カンファレンスルーム

渡瀬建設局長に
大阪のまちづくりの近未来について、
語っていただきました。

2019年8月22日(木)、定例幹事会に続いて、今年度第1回さろんトークでは渡瀬建設局長に講演いただきました。5月のテーマフォーラムでは新局長3人揃い踏みとなりましたが、今回改めてまちづくりへの熱い思いを語っていただきました。『中心市街地からみる大阪の近未来』と題して、冒頭、本日の論点の中心、局長の抱いている『御堂筋の近未来の姿』がイラストで紹介されました。続いて、鉄道はじめ淀川左岸線ほかの広域・大阪都市圏交通ネットワーク、御堂筋を中心とした大阪のまちづくり及び人中心の道路空間再編を中心とした都市構造・空間の再編、さらには官民連携によるまちづくり・エリアマネジメントに言及されました。最後に「大阪・関西万博」への思いも含め、水・環境に関わる海外展開まで、幅広い論点を講演していただきました。御堂筋については、交通量等の現状から、なんば周辺でのモデル整備、他都市での取組みの紹介もあり、併道歩行者空間化、将来のフルモール化にも言及されました。その他、うめきた、梅田地下街、御堂筋沿道地域の歴史・文化的な街並み創出にもコメントされていました。特に、御堂筋等に関わりの深い会員企業との取組みの紹介もあり、今後のより一層の官民連携の重要性を互いに認識したところでした。



熱意を込めて語られる渡瀬局長



渡瀬建設局長の講演

自主活動プログラム

2019年9月9日(月)14:00～17:30
京都鉄道博物館

関西企業の技術力を知る、をテーマに
京都鉄道博物館見学とセミナーで、関
西の鉄道文化への見識を深めました。

JR西日本様の全面的なご協力により、京都鉄道博物館を総勢77名で訪問。セミナーと見学会を実施しました。京都鉄道博物館は「地域と歩む鉄道文化拠点」をコンセプトに2016年4月に開館しました。貴重な車両が多く収蔵され、鉄道の歴史、安全、技術などを学ぶことができます。現地集合後すぐに3階ホールへ集まって、JR西日本の専名執行役員副本部長様、阪急電鉄の奥野部長様、近畿日本鉄道的小林部長様等の御3名様から新線開発とまちづくりに関する話題提供をいただき、意見交換を行いました。続いて、京都鉄道博物館の四方副館長より施設概要と見どころの説明を受けて館内を自由見学。駅舎台での動態保存されたSLの方向転換、巨大鉄道ジオラマでの模型走行などを直に目撃し、まさに大人の満足となりました。最後は今年3月に開業した南小阪京都西駅からJR嵯峨野線で京都駅に移動し、グランヴィア京都にて交流会を行いました。経歴が長い中でしたが、鉄道王国関西の一端を体験することができました。JR西日本様、関係者の皆さま、ほんとうにありがとうございました。



JR西日本専名氏の話題提供



展示車両前で集合写真

幹事研修会

2019年9月13日(金)～14日(土)10:00～16:00
北海道ニセコエリア(倶知安町・ニセコ町・小樽市街)

インバウンド、リゾート開発で観光を活
ニセコエリアを訪問し、現状の理解を深め、
関西・大阪のまちづくりについて考えました。

今年度の幹事研修会は、
○インバウンドにより観光を呼び、リゾート開発も進展しているニセコエリアを訪問し、地元行政およびリゾート開発に関わる方々からのヒアリングと、開発の現場を直接見る事で理解を深める。
○得られた知見を関西・大阪の観光・インバウンド等のまちづくりに活かす。
○地元経済への協力を図りつつ、幹事相互の連帯を図る。
という3点を目的に実施しました。参加者はCITEさろん会員各社の幹事等28名。現地での意見交換と、冬の到来の前に進む開発現場を直接見る事で、開発規模、スピード感等、ニセコエリアの現状を実感する事ができました。
◆研修概要◆
○倶知安町
観光課係長の沼田様、倶知安観光協会業務執行理事の大久保様より、倶知安町の概要、観光施策、リゾート開発の経緯・現状、オーバーツーリズム等についての説明を拝受およびスキー場を中心としたニセコエリアで進む開発の現地視察と説明を拝受。
○幹事視察
初日の懇親会、2日目のゴルフ、観光(小樽市内)、オプションにて3日目のゴルフを実施
○宿泊|ヒルトン・ニセコヴィレッジ



羊蹄山を背景に集合写真(ヒラフ地区にて)



倶知安町でのレクチャー風景

第1回トークセッション

2019年9月5日(木)18:30～20:30
メビック駅前

都市がクリエイティブで多様な人材を
引きつけるために必要なしくみや
場づくりを専門家に伺いました。

「大阪におけるクリエイティブ産業の振興
～メビック前町の取り組み～」
○講師|堂野 智史氏
(公益財団法人大阪産業局クリエイティブ産業推進部長、メビック前町所長)
○参加者|40名
大阪で活動するクリエイター同士やクリエイターと企業の関係づくりを進める「メビック」、競争とコラボレーションにより新たな価値やビジネスが生まれる環境づくりを目指し、日ごろの活動に込める思いについてお話しいただきました。
○真のマッチングを求めて
人と人が、個人的な信頼でつながったネットワークの中からこそ、新しい知見や真の提案が生まれ予測しなかった成果につながると力説されました。
○同世代の現役クリエイターが活躍
現役クリエイターにコーディネーターを委嘱して、新しいクリエイターを実際に訪問し、話を聞くとところからつながりを構築。まさに顔の見える関係づくりです。
○クリエイティブコミュニティ誕生の場
コワーキングスペースやカフェがあるだけでなく、顔をよく知るインフルエンサーがいて、人と人をフラットな関係の中で多様なつながりに導く、メビックのようなしくみがまちづくりに求められることを実感しました。



ユーモアを交えて語る堂野メビック前町所長



「クリエイティブとまちづくり」について考える

大阪食文化研究会「2019初動取組」をスタート

■大阪食文化研究会「2019初動取組計画」

CITÉさろん大阪食文化研究会は、辻調理師専門学校に全面的にご指導願ひ、①海外の先進事例、②合計7回の研究会成果、③大阪食動向調査結果を踏まえ、2018年度末、「食動向調査・大阪構想」をとりまとめました。並行してこの成果が外部機関から一定評価を受け、様々な食会議の場に招かれ、講演や意見交換を行う中で、現在オール大阪で招致活動を進めるアジアベストレストラン50や、次回食博覧会・大阪が開催される2021年度をターゲットイヤーとして、そこへつなぐ「実地活動」に、府市、経済界、観光局、食博実行委員会等と連携・役割分担し、CITÉさろんとして初めて取り組むこととなりました…これが「初動取組」です。2019年度は、引き続き、鉄道事業者等と連携し、次の4項目に取り組めます。

- ①食動向調査・大阪プロモーション(7鉄道事業者連携による「食の共同プロモーション」の実施など)
- ②市場を核とした食まちエリア戦略研究会(世界に通用する日本初のフードダイバーシティ型市場の再生模範検討)
- ③食まち回遊イベント(食まちエリア戦略研究会とリンクした食まちエリアの魅力向上イベントの実施)
- ④先進事例視察会(日本初のフードビジネスインキュベーター「OSAKA FOOD LAB」視察会)

●●●

■活動報告

1. 日本初のフードビジネスインキュベーター「OSAKA FOOD LAB」視察会

- (1) 開催日時：2019年8月2日(金) 15時00分～17時30分
- (2) 開催場所：OSAKA FOOD LAB
- (3) プログラム

- 開会挨拶 CITÉさろん会長 藤野 研一氏
- 主旨説明 CITÉさろん副会長 上田 徹氏
- 取組説明「中津におけるフードビジネスインキュベーション事業について」
阪急阪神不動産株式会社
開発事業本部 都市マネジメント事業部
橋田まなぶ氏(グループ 菅 千通氏)
- 会場対話 阪急阪神不動産株式会社 菅 千通氏
株式会社Office musubi 代表取締役 鈴木 裕子氏

(4) 要旨報告

- ・ITやものづくり等を新たに起業支援するインキュベーションオフィスは国内に多く存在しますが、食ビジネスに特化したものはなく、「ならば創ろう、ここ大阪に、食の街、大阪に」をテーマに、2018年8月10日、日本初のフードビジネスインキュベーター「OSAKA FOOD LAB」が誕生しました。
- ・OSAKA FOOD LABは、食でチャレンジする方々を応援する空間であり、①キッチンスペースの提供、②飲食ビジネスの専門家チームによる支援、③フードマーケットやセミナー開催を通じた商品販売機会の提供、④国内外からの食ビジネス関係者との交流機会の提供、を柱に、飲食店経営や資金調達に実務のある実務指導のもと、最長8ヶ月で卒業するプログラムで運用されています。
- ・オープンに先駆け2014年度からニューヨーク・ブルックリンとの都市間交流に着手し、行政や企業との人的交流から「スモークスバーク」をOSAKA FOOD LAB開設に向けたキックオフイベントとして招致され、2017年10月「スモークスバーク大阪」を開催しました。①日

本出店に興味を持つ海外事業者の日本マーケット調査の場となる、②世界一のビジネス都市ニューヨークで「梅田」の都市名を広くプロモーションできた、③スモークスバーク代表者とのビジネス交流に成功、④多くの飲食店から事業推進サポートを獲得、などの大きな成果が得られました。

- ・うめきた2期を控え、梅田中心部とうめきたの間に位置する「中津」に集積する個人経営店の個性を活かしながら、その拠点機能を中津に構築することで集客向上と回遊させるしくみを確立していきたいと考えています。
- ・OSAKA FOOD LABは、食に関心をもつ高感度な人が集まる魅力あるエリアとして、中津エリア全体のイメージ向上につなげていきたいと考えています。



食の視察

講師の方々

先進事例視察会・講演後の質疑応答

先進事例視察会・講演後の質疑応答

2. 第1回市場を核とした食まちエリア戦略研究会

- (1) 開催日時：2019年8月9日(金) 14時30分～17時30分
- (2) 開催場所：大阪府立大学i-siteなんば 2階C会議室
- (3) テーマ：「卸売市場の現状を知る」
- (4) プログラム

- 開会・主旨説明 CITÉさろん副会長 上田 徹氏
- 話題提供
- ① エリアの価値を高める「市場再生」に取り組む意欲
～世界先進都市に学ぶ「都市型市場の魅力とその運営方針」～
有限会社ハートビートプラン 岸本 しおり氏
- ② 大阪ミナミエリアの現状と課題
南海電鉄株式会社 執行役員
グレーターなんば創造室長 和田 真治氏・課長 尾上 敬一氏
- ③ 大阪木津市場の現状と課題
大阪木津市場株式会社 代表取締役社長 桑原 浩氏

○閉会

- ◆テーマ アジア最大の食の都・大阪への挑戦「世界一魅力的な市場をミナミに築く」

◆登壇者

- ・亀岡 孝治氏
(三重大学大学院生物資源学研究所フードシステム学研究室 教授)
- ・尾崎 環氏
(辻調理師専門学校 企画部長、産学連携教育推進室 室長)
- ・泉 英明氏(有限会社ハートビートプラン 代表取締役)

(5) 要旨報告

- ・食の業界でも、その土地ならではの食や持続可能性、多様性が重要視

される中、世界から見ると、市場を含めて日本の食は大きく立ち遅れています。世界の市場は明確なコンセプトを持ち、生産者と食卓をつなぐ役割を料理人が担い、クオリティコントロールにも寄与しています。そのしくみをもつ常設市場は現状日本には存在しません。ICTの普及や仲卸の高齢化に伴い、今後卸売機能は大幅に減少し、とくに都市域ではエリア価値を高める重要施設として、明確なコンセプトと多面的機能をもつ小売市場への転換が大きく進展すると予想されます。

- ・「クオリティの低下」「上質店の廃業・離散」「食べる場だけでなく、働く場」など、昨年度実施した食動向調査においても、「大阪の課題はミナミ」と多くの方から回答を受けました。大阪が食の都と主張するのであれば木津市場を世界やアジアと対話することのできる都市型小売市場として、時代とエリアの要請をしっかりと受け止めて再生する必要があります。
- ・国際的エビデンスをもつ「品質評価機能」や「安全・安心」「ウェルネスなくらし」「需要調整機能(フードロス対応)」「データ駆動型農業」「デジタルマーケティング」など、これら全ての要素を統合管理するのがICTであり、食と農のエコシステム「IOF(Internet of Food and Farm)」を構築してビジネスを考えていく必要があります。

- ・さらに2017年以降、アグリテックから「アグリフードテック」に変化し、投資対象がフードまで拡張しました。市場についてもIOFにアグリフードテックを加えた領域をICT化し、ビジネスを考えていく時代です。
- ・海外では、コンセプトを持ち、共感する人々が集うことでコミュニティの基盤となり、更に観光客も加わり、都市域の小売市場が非常に充実しています。木津市場の規模や立地性を考えると十分実現可能です。コンセプトを持つことは、都市やエリアのメッセージを明確に伝えることであり、地域産品や地産地消、生産者と消費者と料理人との強い信頼関係が築かれ、そこから共感が生まれます。その上質な空間に多くの観光客が集まり、見聞するのです。

- ・IRや万博以降、インバウンドに加え、大阪に居住する外国人労働者が急増することを視野に入れる必要があります。もしこのエリアにハラルやベジタリアン等を中心とする人を積極的に受け入れていくとすれば、食の流通も同時に検討しなければなりません。まさに「都市」と「食」をつなぐ問題であり、「食」を都市戦略の中に明確に位置づけて検討していかなければならないでしょう。



亀岡先生のご講演

亀岡・尾上・泉3氏による開会

フロアからの質疑(長江副会長)

角野氏によるご挨拶

今後世界やアジアと大阪ミナミが真実に交流していくのであれば、高度な人材と国際的投資を獲得して、上質な空間の中で上質なおもてなしをしていく必要があります。まさに「食動向調査・大阪構想」に記した「大阪人の食意識の向上」と「シビックプライドの醸成」のために、CITÉさろん大阪食文化研究会の挑戦ははじまります。

ソトから見た大阪研究会

大阪のまちをソトから見ることで、俯瞰的・客観的に「まちの活性」「女性の活躍」につながるキーワードを探っていきます。

2019年度は、「訪れる」視点で、人を惹きつけるまち・場所を生み出すヒントを探る」をテーマに、先進事例視察とインタビューの実施、体験型のイベントや講演会などを開催する予定です。

1) 視察・インタビュー ※実施中

- 先進事例に取り組む人々にインタビューを行うと共に視察を実施する。
- ①「HOSTEL NINIRoom」 NININI 共同代表 西濱 愛乃氏、西濱 朝樹氏
- ②「CAFETEL 京都三条」 京阪ステイズ㈱ 常務取締役 松井 美佐子氏
- ③「ホテルアンデルーム京都」 ホテルアンデルーム京都 支配人 上田 聖子氏

2) 体験型イベント

昨年度、ヒアリングをさせていただいたmi-ri meter宮口明子氏、笠置秀紀氏にご協力いただき、「URBANING_U」(ユニークなフィールドワークとディスカッションを通して、まちに対して能動的にかかわるマインドを育てるプログラム)という体験型イベントを実施し、まずは、自分とまちを見直すことから始めます。

【日 程】2019年10月31日(木)

【参加者】ソト研メンバー、CITÉさろん関連会社の女性社員、CITÉさろん幹事の皆様

3) 講演会などのイベント ※開催中

【テーマ】(仮)訪れる視点で、人を惹きつけるまち・場所を生み出すヒントを探る(ひとところに縛られない生き方の視点より)

【日 程】2020年2月開催予定

【ゲスト講師】検討中

【参加者】CITÉさろん関連会社の女性社員、幹事の皆様などを中心

※昨年度までのソト研活動内容の詳細は、<http://sotoken.citesalon.jp/>をご覧ください。(ID:member、パスワード:readme)



ソト研メンバー打ち合わせの様子

視察・インタビュー先のHOSTEL NINIRoomにて

《これからの主なイベント・スケジュール》

◆第2回CITÉトークセッション

「クリエイターの活躍できる都市づくり」～福岡市が取り組むイノベーション都市～
日 時:2019年10月23日(水) 18:30～20:30
講 師:的野 浩一氏(福岡市住居都市局イノベーション課長)
場 所:東阪急ビル 9階 会議室

◆第3回CITÉトークセッション

「クリエイターの方でつくる都市づくり」～都市におけるクリエイターの役割～
日 時:2019年11月11日(月) 18:30～20:30
講 師:原田 祐馬氏(UMA design farm代表)
場 所:メビック福岡

◆大阪食文化研究会「第2回市場を核とした食まちエリア戦略研究会」

日 時:2019年11月6日(木) 14:00～17:00
登壇者:桑原 浩氏(大阪木津市場株式会社 代表取締役社長)
菊池 信孝氏(株式会社フードビクト 代表取締役)
小林 智氏(大阪市立大学大学院 経営学研究科 グローバルビジネス専攻科 教授)
岸本 しおり氏(有限会社ハートビートプラン)
司会者:角野 幸博氏(関西学院大学 総合政策学部 教授)
場 所:大阪産業創造館 5階 研修室A・B



株式会社アーキミズ



株式会社IAI竹田建設



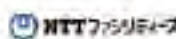
進研ゼミ塾研究社株式会社



株式会社NTTドコモ



NTT都市開発株式会社



株式会社
NTTフロンティア



大阪ガス株式会社



大阪地下鉄株式会社



株式会社大井物産



株式会社奥村組



オリックス株式会社



株式会社鹿島



株式会社通信総合テクノス



関西電力株式会社



近畿不動産株式会社



株式会社きんでん



株式会社クボタ



京阪ホールディングス株式会社



株式会社埴田組



コクヨ株式会社



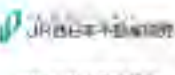
株式会社サイマックス貿易



会員リスト



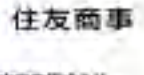
サンタリー
コーポレートビジネス
株式会社



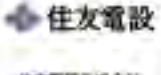
JR西日本不動産開発
株式会社



清水建設株式会社



住友商事株式会社



住友電設株式会社



積水ハウス株式会社



デザインエング株式会社



大成建設
大成建設株式会社



株式会社竹中工務店



中央建設コンサルタント
株式会社



東京電機株式会社



福島建設株式会社



南海電気鉄道株式会社



NTT日本
エレクトロニクス



西日本鉄道建設
株式会社



株式会社日建設計



日本生命保険株式会社



パナソニック株式会社



熊本電気株式会社



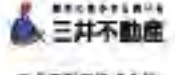
熊本電気株式会社



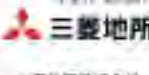
京産電気鉄道株式会社



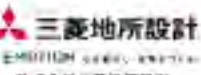
富士通株式会社



三井不動産株式会社



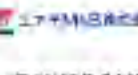
三菱地所株式会社



三菱地所設計
株式会社三菱地所設計



三菱商事株式会社



三菱商事株式会社

計48社(50家数)

Event Calendar 2019年度 CIT さろん イベント・カレンダー

CIT2019年度				
4/15	月	15:00	◆第4回WS2	分科会
4/17	水	15:30	◆4月定例幹事会	総務
4/18	木	15:00	◆第4回WS3	分科会
4/25	木	15:00	◆第4回WS1	分科会
5/17	金	15:00	◆第28回定期総会	総務
		16:00	◆テーマフォーラム(学識講演・特別講演)	研究活動
6/6	木	15:00	◆第5回WS2	分科会
6/12	月	15:00	◆第5回WS2	分科会
6/17	月	15:30	◆6月定例幹事会	総務
6/18	火	18:30	◆大阪食文化研究会	研究活動
6/19	水	15:00	◆第5回WS1	分科会
7/16	火	8:05	◆第1回健康ゴルフコンペ	総務
7/31	水	15:00	◆第6回WS3	分科会
8/2	金	15:00	◆大阪食文化研究会(学識講演・特別講演)	研究活動
8/9	金	14:30	◆大阪食文化研究会	研究活動
			(第1回市場を導いた食まちエリア戦略研究会)	
8/22	木	15:00	◆8月定例幹事会	総務
		16:00	◆第1回さろんトーク	研究活動
8/23	金	15:00	◆第6回WS2	分科会
8/28	水	15:00	◆第6回WS1	分科会
9/5	木	18:30	◆第1回CIT トークセッション	広報
9/9	月	14:00	◆自主活動プログラム	研究活動
9/10	火	15:00	◆第7回WS3	分科会
9/13	金		◆幹事研修会	総務
9/14	土			
10/10	木	15:15	◆10月定例幹事会	総務
		16:20	◆第2回さろんトーク	研究活動
10/23	水	18:30	◆第2回CIT トークセッション	広報
10/28	月	15:00	◆第7回WS1	分科会
10/31	木	15:00	◆第7回WS2	分科会
		16:00	◆ゾトから見た大阪研究会 体験型イベント「URBANING, UJ」	分科会
11/6	水	15:00	◆大阪食文化研究会 (第2回市場を導いた食まちエリア戦略研究会)	研究活動
11/7	木	15:00	◆第8回WS2	分科会
11/11	月	18:30	◆第3回CIT トークセッション	広報
11/30	土		◆第2回健康ゴルフコンペ	総務
12/15	月	15:00	◆12月定例幹事会	総務
				調整中

ホームページを開発しています! <http://www.citesalon.jp/> (一般公開用ホームページではありません)

編集後記

令和へと時代は変わる中、WSには、手塚治虫様の方にも夢(期待)して時代の流れを感じました。平成11(1999)年1月に設立・誕生したCIT さろんは、間もなく30歳を迎えます。新時代の変化の中、CIT さろんとして常に一歩先んじた考え方でまろごとくに取組みたいものです。勇気ある市長のインスピレーションで「これからのまちをつくらせていく若い人たちが活躍する場」として大事業。また、「先見性」「先発制」の観点、区域的、国際的な交流のユツが重要でそれを表現できる場としてCIT さろんが誕生され「新しい人たちが新しいことを考え、新しい未来をつくらせていく」そのプラットフォームとしてCIT さろんが機能する」ことを期待する旨の発言がありました。事務局もこうした思いを共有し、取組みます。(事務局)

シテ・レトル
CITÉ
LETTRE

シテ・レトル
2019年10月号 Vol.80

発行・CIT さろん事務局
〒541-0055 大阪市中央区南船場中2-2-26
新船場センタービル5号館2階
一般財団法人 都市技術センター 内

企画・CIT さろん広報委員会
編集・UTAN VILLAGE